

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

日本人高齢者における耐糖能異常と咬合機能障害発症の関連性についての前向き研究

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学病院 内科 (研究責任者) 藤城 緑

＜研究期間＞

承認日 ~ 令和 (西暦 2028) 年 3 月 31 日

＜研究の目的と意義＞

糖尿病と歯周病との関連はすでに知られています。歯周病は、糖尿病の新規発症、糖尿病患者における血糖コントロール悪化や血管合併症の進展に寄与しているとの報告があります。一方で糖尿病は、歯周病や歯の喪失の増悪因子でもあることから、歯周病は糖尿病合併症の一つと言われています。日本人における糖尿病と歯周病の双方向の因果関係については、すでに報告されています。

高齢者では、咬合機能低下・オーラルフレイルは様々な合併症と関連する因子ですが、本邦において糖尿病・血糖値と咬合機能低下に関するデータは十分ではありません。そこで、2019年に当院で健診を受診された65歳以上の高齢者について咬合機能と血糖値を含む臨床的因子の関係を検討したところ、HbA1c高値と容量依存的に咬合の問題が関連する結果が得られました。この予備研究を背景として、今回我々は、糖尿病・血糖値と咬合機能低下との関連について検討し、耐糖能異常がオーラルフレイルの発症進展予防に寄与する新知見を得ることを目的に、本研究を立案しました。

＜利用する試料・情報の項目＞

健診センターデータベースより、年齢、性別、身体所見（身長、体重、肥満度、体格指数（BMI）、腹囲）、血圧（最高、最低）、脈拍数、血液検査（総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール、中性脂肪など）の他、問診・予診票などの情報を使用致します。

＜対象となる方＞

2022年1月1日～2022年12月31日に当院健診センターで健診を受診される65歳以上の方

＜研究の方法＞

健診時に予診票の3択のうち、「何でも噛んで食べることができる」と答えた方を「咬合に問題なし群」、「ほとんど噛めない/噛みにくいことがある」と答えた方を「咬合に問題あり群」とします。2028年3月までの約5年間追跡し、咬合障害「なし」から「あり」に変化した方と、変化しなかった方の間で、HbA1c値や血糖値の関与を調査します。生活習慣として、喫煙、飲酒、食行動（早食い、就寝直前の夕食摂取、朝食抜き、おやつ・甘い飲み物、等）について調査します。さらに、身体所見（身長、体重、肥満度、体格指数（BMI）、腹囲）、血圧（最高、最低）、脈拍数、血液検査（脂質関連）の関与についても調査します。

<お問い合わせ窓口>

日本大学病院（東京都千代田区神田駿河台 1-6）

内科 氏名：藤城 緑

電話：03-3293-1711 内線：(PHS) 5550